



あるジャーナリストの横顔

文学部教授 八木 幹

Paul Johnson の名を知ったのは、1967-8年滞英中のことであった。当時 Johnson は *New Statesman* の編集長をしていた。Johnson の署名記事は、労働党 Wilson 内閣に対しても、かなり厳しいものが感じられた。漠然と日刊紙 *The Guardian* と週刊誌 *New Statesman* の方向を、労働党支持と単純に予想していただけない、Johnson の名は、次第に個性的なジャーナリストとして記憶に留るようになった。1967年11月、英国労働党内閣はポンド切下げを実施し、従来の1ポンド対米為替2.8ドルの交換率を2.4ドルに決定。この平価切下げの衝撃を鎮めようと、11月19日の夜 Harold Wilson は自ら B・B・C 放送で、英国国民の財布の1ポンドは、国内的には、あくまで従前通りと言明した。有名な "pound-in-your-pocket" 演説である。*New Statesman* は痛烈にこれを批判する。Johnson にとって、政治家が事態を収拾するために、真相を回避して、巧みに修辭的に国民を誑かそうとすると、それはもはや、ポンドの切下げにとどまらず、英語の切下げを意味する。彼は Wilson 労働党内閣が今やことばの "devolution" を実施していると警告した。1970年 Wilson は退陣し、保守党 Edward Heath 内閣が成立した。この頃 Paul Johnson は1965年来の *New Statesman* の編集長を辞任し、今後歴史の研究、著述に専念するという意向を明らかにする。Thomas Becket 死後800年にあたる1970年、David Knowles 教授の同名の書が発刊された時、*N.S.* 書評で、これをとりあげたのは、Paul Johnson であった。(1970年11月20日号) これは、たまたま新刊の書を、ジャーナリズムの感覚で、もっぱら紹介的に解説するといった性質のものではなかった。評者が、いわば著者と同じ土俵にあって、Henry 2世治下の12世紀のイギリスの現状に対し、並々ならぬ関心と洞察を示したものであり、Henry II 対 Becket の関係を、"歴史家" の考察、見識をもって、問題の核心にせま

り、論点に対する Johnson 自らの取り口を示していた。"大寺院の虐殺" に対するいさゝかの感傷もなく、政治と宗教の冷静な事実の把握が展開していた。("The Case Against Becket" *N.S.* 1970年11月20日)

1973年 Antonia Fraser の *Cromwell Our Chief of Man* が出版され、*N.S.* の書評欄は、Johnson の詳細な review を掲載する。(1973年6月8日)そして、この間に力作、*The Offshore Islanders* 466頁が Weidenfeld and Nicolson 社より出版された。(河上徹太郎『近代史幻想』

昭和49年文芸春秋社)は、"遙か沖合の島国びと" の章で、心憎く Johnson を論じてやまぬ。)

Johnson は、この書の序文で、大胆に世間で云うジャーナリストと歴史家の区分を拒否する。それは、著名なジャーナリストとして活躍してきた本人が、今、一巻のイギリス史を執筆するにあたって、自己弁護を試みるといったものではない。現在をより鋭く、正確に理解すべきジャーナリストは、時に懸命にタイプをたたくことをやめて、書架に向わざるを得ぬ。彼は現在のイギリスの苦境を十分に見極める必要にかられ、歴史的に問題点を考察しようとする。が、もとより Johnson の要望を充足する書物は見当らぬ。そして、Johnson は、自ら "遙か沖合の島国びと" の歴史を書きあげる。かつて *N.S.* のベケット論が、この個性に富む「英国史」の史で、はっきり文脈を与えられ、論旨が一層鮮明にうかんでいるのを見ると、一回的ジャーナリズムの消耗品でない、いわば輪郭を賦与された "時" の推移を吾々は思わず確認する。海をへだててヨーロッパ大陸に位置するこの民族の伝統を、自由人 Johnson は、いさゝかの自嘲、自虐もなく、かつての栄光と現在の斜陽の実態を直視する。そして、ジャーナリストの Johnson の発言に、歴史家の展望、視野をのぞいた吾々は、反面歴史家の Johnson の考察の背後に、あの鋭いジャーナリストの目がひかっているのを知らされる。(Paul Johnsonの詳細は4面に)



BAYLOR UNIVERSITY
DEPARTMENT OF PSYCHOLOGY
Waco, Texas 76703

ベラー滞在2か月の記

商学部教授 白樫 三四郎

このところウエイコーは、空はまっ青に晴れたいへんよい天気が続いています。午後からはやや暑いこともありますが、それも夏ほどではなく、まことに快適です。8月21日にこのキャンパスに到着したので、間もなく2か月になります。

ベラー大学のキャンパス風景は、日本の大学とそれほど変わりませんが、広くゆったりとしています。およそ8,400人の学生がいます。乾燥しているためか、芝生に水をやる設備があちこちにあって、いつも水をまいています。

私は交換教授として、心理学部で毎週2回(90分ずつ)の授業をもっています。心理学特選題目Iという名称で、学部3年生以上に受講の資格があります。今学期は、たまたま受講生は全員大学院生です。セミナー形式で進行しています。研究テーマとして、「日本人の心理」をやっています。授業のうちかなりの時間が討論となります。大学院の授業のみならず、学部の授業でも、こちらでは、よく討論をしているようです。

私の研究室は心理学部のなかに与えられていますが、全然窓がありません。西南の学術研究所の新館研究室と比較すると、こちらのほうがやや狭いようです。この心理学部には非常勤講師および私を含めて11名のスタッフがいます。毎週1回、教授会が開かれます。

西南から来ている中島(英文)、渡辺(英文)井上(英専)、吉田(商)の4人の学生も、それぞれ元気ががんばっています。渡辺さんと井上さんはいま自動車運転のコースもとっています。私もこちらに来て、自動車運転の免許をとりました。日本で運転の経験が全然なかったので、かなり苦労しました。

図書館のことをすこし書きましょう。ウエイコーのキャンパスには、全部でおよそ70万冊の書籍があるそうです。一番中心となる図書館は月曜から金曜は、午前8時から午後11時まで開いています。毎晩おそくまで煌々と明がついて、大勢の学生が勉強しています。図書館のなかに論文(修士・博士)を執筆する学生のための、小さな個室が準備されていて、資格のある学生は一定期間借

りることができます。単行本は借り出すことができますが、雑誌、定期刊行物は新刊はもちろん、製本ずみのものも、一切持ち出しできません。そのかわり、コピーの機械がたくさん備えられており、1頁5セントで手軽に自由にコピーできます。

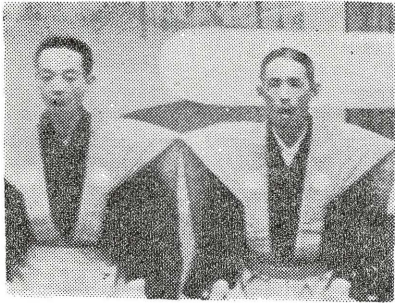
また、この図書館の他にイギリスの詩人 Brownig 夫妻に関する遺品、書物、研究資料などを多数集めた Browning Library があります。このスタンドグラスは美事です。この他、テキサスの歴史に関する文書や資料を集めた Texas Collection と呼ばれるものもあります。これらは、そのユニークさ、その資料の完全さなどから、内外ともに有名です。

先日、この中央図書館で、Fleishman, E. A., & Hunt, J. G. (eds.) 1973 Current developments in the study of leadership. (Southern Illinois University Press) という本を見ていたら、このなかのフィードラー教授の論文に、私の手紙を引用してあるのを見つけ、大いに感激しました。ウエイコーに来る途中、シアトルでフィードラー教授にも会っていましたので、いっそう、うれしく思いました。

こちらの学生は、勉強もかなりよくやりますが、同時に、他にも幅広く活動します。学生達の作る新聞は、毎日発行されます。学生達の社交クラブもいろんな種類のものがあり、それぞれ多様な活動をしています。また、フットボールに人気があり、ベラー・スタジアムで試合があるときは、学生、教職員はもちろん、大勢の市民がつかまけます。

こちらでは家族と一緒に校内のアパートに住み、子供たちは私立の小学校に通っています。大勢の関係諸先生、学生諸氏に助けられて、元気に過しています。

(現在交換教授としてベラー大学に滞在中)



趣味の本

—— 謡 曲 ——

山下和夫

私が謡曲を習い始めたのが昭和35年であるから、もうかれこれ15年にもなる。俗に下手の横好きという諺があるが、私もその例にもれないらしい。しかし、たとえ横恋慕であっても、15年となると、その執心だけでもかなりのものだ。小町のもとに九十九夜通いつめたという深草の少将も、これには少々顔負けではないかときえ思われるのである。

しかしこの道、年数さえ積みば上達するというものではないらしい。習い始めてある程度たつと、あとはなかなかうまくならない。それどころか、謡っていても気分がらず、しまいにはくさってしまって、謡本を見るのさいやになってしまうことすらある。要するに鍛練が足りないのだと思い直して、とある日曜日は朝から懸命に唸っていたところ、外から家内が声を掛けた。近所のおばあさんが通りすがりに、「お宅は仏様ごとのありよりますそうナ」と挨拶したという。これを聞いて、ついに私も頭に来た。

「ばかばかしい。お経と間違えられてたまるか。もう止めた。」そう思って師匠にその話をしたら、一しきり笑ったあとで次のような心得を話してくれた。「気分がのらねば、別に無理して練習することはありません。

こうしたときは、むしろ謡本の物語に親しむことを心掛けたらよいと思います。謡わずに文学として読むこともまた楽しいのです。」

そういえば、謡曲はいろんな題材を扱ってはいるが、そのよりどころは大部分古典の文芸である。それに謡曲作者の構想や脚色がなされて、親子の情、恋愛、人間の嫉妬や復讐、それに武人の哀話など当時の人生観・社会観あるいは情緒といったものが訴えられている。それが各時代の人々の心に通ずるものがあって、世阿弥生誕六百年の今日まで長く生き続けてきたのであろう。そう気付いて、その後は謡本の解説に目を通したり、謡曲に関する本を読んだりして、つとめて物語に親しむようにした。

けれども、謡曲ないし能に関する本はたいへん少ない。たまにあって、能の鑑賞用の簡単なものに過ぎ

ず、図書館にあるものといえば、ものの30冊程度であらうか。そのうち何といっても圧巻なのは、佐成謙太郎著「謡曲大観」全7巻（明治書院刊）であろう。まず第1巻で謡曲の生成発展の歴史、その思想、題材、出典などが詳しく解説されている。とくに能面、装束、小道具など色刷りの画譜がついていて、見るだけでも楽しいものである。第2巻以下は全曲235番について詳細な解説、ことばの意味、それに全文の口語訳がなされている。

この特殊な古典芸術の詞章を、よくこれほどまでに追求されたものだと全く驚嘆せずにはいられない。田中允著「評註謡曲全集」はこれに較べると非常に簡単だが、謡曲の5つの種別に応じて各1曲ずつ註釈と口語訳を施している。

古典文学の全集物にはたいてい謡曲集が含まれていて、「日本古典文学大系」（岩波）、「日本古典文学全集」（小学館）などがあるが、いずれも主な曲について詳細な解説や注釈（後者は口語訳）がついている。

その他の本としては、能の鑑賞、世阿弥の研究、能に関する随筆といったものであろう。私の本棚とはいえば、謡い方の本が主である。「観世流、節の精解」「謡い方講座」それに筑摩書房の「現代謡曲全集」（シート付き）といったところであらうか。またポケット本ではあるが、P. G. O'Neill—A guide to Nō. というのを外人への説明用にと買って買った。能ほど説明しにくいものはない。自分でやらない人には、ほとんど興味がわかないときえ言われている。ましてや外人にはなおさらだろう。そこで、What is Nō? と問われたら、早速、Please! と答えてこの本を出そうというわけである。

よく人から、謡曲のどこが面白いかと聞かれることがあって、これには、自分で謡ってみないとその魅力はわからないと逃げることにしている。しかしあえて自分勝手な感じを言わせてもらうなら、その中の各謡い手のやりとりと地謡い（合唱）の組合せの面白さではないかという気がする。そのうえ、私のようなオンチでも一人前に参加できるところがまた嬉しいのである。

（元図書館司書長 現在教務課長）

☆ NEWS ・ お知らせ ・ INFORMATION ☆

<学生利用規則改正>

図書の貸出については、現在2冊11日間ですが、貸出冊数を1冊増して3冊とすることが決まりました。また休暇中の貸出3冊が5冊になりました。(大学院学生は15冊)

さらに、貸出期間経過後、引続き帯出希望の場合、11日間の帯出更新が認められるようになりました。留学生の図書館利用についても、従来より利用しやすいように改めました。以上のとおり、学生諸君の図書貸出については、その冊数、期間などにつき、利用規則改正が決まりましたので、出来るだけ早い時期に実施する予定です。近日中にその内容と実施期日をお知らせします。

<新図書館委員紹介>

神学部 中村和夫先生
 教養部 森 泰男先生
 文学部
 英文 真鍋 誠先生
 仏語 有田忠郎先生
 商学部 野藤 忠先生
 経済学部 中村 清先生
 法学部 高橋貞夫先生
 (任期 50.7.1~51.6.30)

<積層書庫内装工事完了>

新書庫は、現在の本館があと数年後満庫状態になるのを予想してあらかじめ準備したわけであるが、すでに5階の閉架図書室(クローズ)が満庫状態であった。外装はすでに完了していたので3カ月を費して内装及び書架の工事を行った。新書庫の図書収容能力は28万冊であるので現在の図書館蔵書冊数を上廻ることになり、図書収容能力は約60万冊となり飛躍的に増大したわけである。書庫により多数の図書を収蔵出来る積層式を採用しており、当館の場合、5階建の本館の高さと同じ高さに、7層の書庫をつくっている。

1層のみはすでに国連寄託図書館に利用しているので、本館の2、3階と同じ高さに書庫の2、3、4層、本館の4、5階と同じ高さに5、6、7層をつくったわけである。いずれにしても、新書庫の完成にともなって、本館に相当のゆとりが生じ今後より利用しやすい図書館として、この新書庫が大きな役割を果たすことが期待される。

<研修・出張>

福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会
 50. 7. 11 刀根司書長出席 (於・福岡女子大学)
 国連寄託図書館会議 50. 10. 8・9
 今永係長出席 (於・名古屋 愛知県勤労会館)
 私立大学図書館協会秋季西部地区部会
 50. 10. 9 杉本課長補佐出席 (於・伊勢 皇学館大学図書館)
 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会

50. 10. 15 刀根司書長出席

(於・福岡女子大学図書館)

私立大学図書館協会 九州地区研究会

50. 10. 31 槇司書出席 (於・熊本商科大学図書館)

告知板

○冬休長期貸出

12月15日(月)から長期貸出をします。
 返却期限は51年1月16日(金)までです。
 貸出冊数は、5冊以内です。

○冬季休暇中の開館・休館

12月25日(木) クリスマス 休館
 26日(金) 9:00~17:00 開館
 27日(土) 9:00~12:00 "

12月29日(月)~1月5日(月) 年末年始の休館

○特別貸出について

4年次生は卒業論文作成のための特別貸出をすることができます。通常の貸出のほかに3冊以内、期間は1カ月です。

※ 12月14日以降は1月13日(火)が返却期限になります。

大学院生(博士・修士)は、図書5冊、雑誌3冊の特別貸出をすることができます。期間は、図書1カ月、雑誌11日です。

○卒論の閲覧手続について

卒論作成の参考のため、図書館に保管されている諸先輩の卒論をゼミ担当教授の承認を経て閲覧することができます。希望者は予め受付で用紙をもらってください。なお、館外貸出はできません。請求番号は1階の目録カード(ゼミ別に配列しています)で調べてください。

< 奉仕係より >

大学祭が終わり、キャンパス内はすっかり静まりかえり、ものさみしくなりましたが、私達奉仕係はニュー・ユニフォーム姿ではりきっています。

いまや、"芸術の秋" "スポーツの秋" 各地でいろいろな催しが行われています。図書館では"読書の秋"。日頃本に親しまれてない方にも、この秋に読書をおすすめしたいと思います。読みたい本が在庫してない場合は、1階に購入希望申込用紙を用意していますので、大いに利用してください。(J.N)

Paul Johnson 略歴

Paul Johnson 1928年生れ、今年47才。Oxfordで歴史を学ぶ。1974年 *Elizabeth I a study in power and intellect* 511頁を執筆する。